

## 祝 辞

文部科学大臣 高木 義 明

第六十二回全日本中学校長会総会が開催されるに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。  
まず最初に、この度の東日本大震災により被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、復興活動に当たられている皆様方の多大なるご尽力に心からお礼を申し上げます。

また、被災地以外の学校におかれましても、被災地からの転入生徒の受け入れや教職員の派遣など、様々な形で被災地支援にご尽力いただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

大震災から二カ月が経ち、復旧・復興に向けた動きも本格化していますが、この間、私からは、新学期を迎える児童生徒及び全ての学校関係者の皆様あてにメッセージを出させていただきました。今回の大震災の復興は、ただ元に戻すという復興に止まらずに、新しい夢のある社会をつくっていく、そういう復興でなければなりません。自然災害に対して強い地域社会をつくることはもちろんですが、非常時であっても秩序正しく、理性を失わない、そして何よりも人の絆を大事にする日本人の良さを大切にしたい人づくり、社会づくりを更に推進する必要がありますと考えます。

また、これから新学習指導要領の下で学んでいく子どもたちは、将来、社会の中心として活躍していく存在です。子どもたちがこの危機を乗り越えて、共にたくましく成長し、私たちの世代を引き継ぎ、やがて社会の中心として活躍していくためにも、新学習指導要領のねらいである「生きる力」の育成の理念を実現することが重要と考えます。

このような状況を踏まえ、文部科学省としては、被災した学校施設の復旧や子どもたちの精神面・経済面に対する支援はもとより、学校の教育力を更に高めていくため、教員の質の向上、三十五人以下学級の推進、情報通

信技術を最大限に活用する「学びのイノベーション」の推進、子どもたちの社会性や豊かな人間性を育み、国際的にも活躍する人材を育成するため、体験活動、地域に根ざした道徳教育、コミュニケーション教育、外国語教育、生徒指導等の充実に取り組んでまいります。

いよいよ、新しい中学校学習指導要領の全面实施まで、あと一年となりました。全面实施に向け、校長先生方のリーダーシップのもと、改訂趣旨の理解・共有や教材の準備などに取り組まれていることと存じますが、文部科学省としても、新学習指導要領の実施に当たり、様々な課題が生じた場合には、今後とも教育委員会等と十分に連携してその解決に努めるなど、学校現場や国民の視点から必要な支援を行ってまいります。

子どもたちに「生きる力」を育むための教育活動が積極的に展開されることが何よりも重要であり、皆様のご理解・ご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、本日ご出席の校長先生方には、各中学校で全教職員が一致協力し、創意工夫に満ちた学校教育を進められるよう、改めてお願い申し上げるとともに、全日本中学校長会ますますのご発展と、皆様方のいっそうのご活躍をご祈念申し上げます。

(代読) 文部科学事務次官 清水 潔

